

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室つくしん房			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日 ～ 令和 7 年 7 月 24 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日 ～ 令和 7 年 7 月 10 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 8 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援の5領域を踏まえ、活動プログラムを策定し、集団生活に必要な、「見る」「聞く」「話す」力が養えるよう一人一人に合わせた支援を提供している。	一日の預かり療育の活動内容として、生活自立の促し、リトミック等の全身を使った粗大運動、制作課題として手先を使った微細運動、文字や数等の年齢相応な知識の習得、ルールのある遊びを通して人との関わりを持つ内容を取り入れている。	幼稚園教諭、保育士、言語聴覚士等の専門的なスタッフ間の知識を活かし、より支援の内容の幅や質が高まるよう、スタッフの向上を図っていく。
2	事業所として送迎は、保護者様にお願いしているため、送迎時に保護者様と対面でお子様の様子をお話しさせていただいており、連絡帳に活動内容や様子を記載し、共通理解が図れるようこまやかな対応に努めている。	送迎時に対面でお話しができるので、保護者様のお顔を見ながら、その日の様子やお子様の様子をお伝えし、成長したところや今後の課題になっていくことを対面でお伝えすることで、安心して通所してもらえるよう共通理解を図っている。	一人一人の特性を理解し、日々成長に繋げ、共通認識のもと支援が行えるよう、スタッフ間でこまめに話し合い、より連携が図れるよう努めていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園等の交流を積極的に図ったり、地域の他の子どもと活動する機会はありません。	保護者様を通して、園の先生が事業所でのお子様の様子を見学される機会はあるが、頻繁に行われているわけではない。 戸外活動時に出掛けた先で地域の人や子どもたちと接することはあるが、地域の子どもと活動する場に積極的に参加していない。	保護者様にお子様の学年別グループ療育の様子をいつでも見学していただき、家庭、園の先生、事業所との連携が図れること積極的にお知らせしていく。 地域のイベントに参加できる機会がある時は、積極的に参加していけるよう情報収集を図っていく。
2	父母会として「親の会」は、定期的で開催しているが、きょうだい向けのイベントやきょうだい同士の交流の機会を設ける場の提供はできていない。	「親の会」として各学年、年に2回は開催しているが、児童発達支援事業所のきょうだいが低年齢ということもあり、きょうだい同士の交流の機会をどのように設けていくべきかが課題となっている。	きょうだい同士の交流の目的を具体化し、低年齢でも参加できるようなイベントとしての形を取る等、スタッフ間で話し合い創意工夫をしていく。
3			